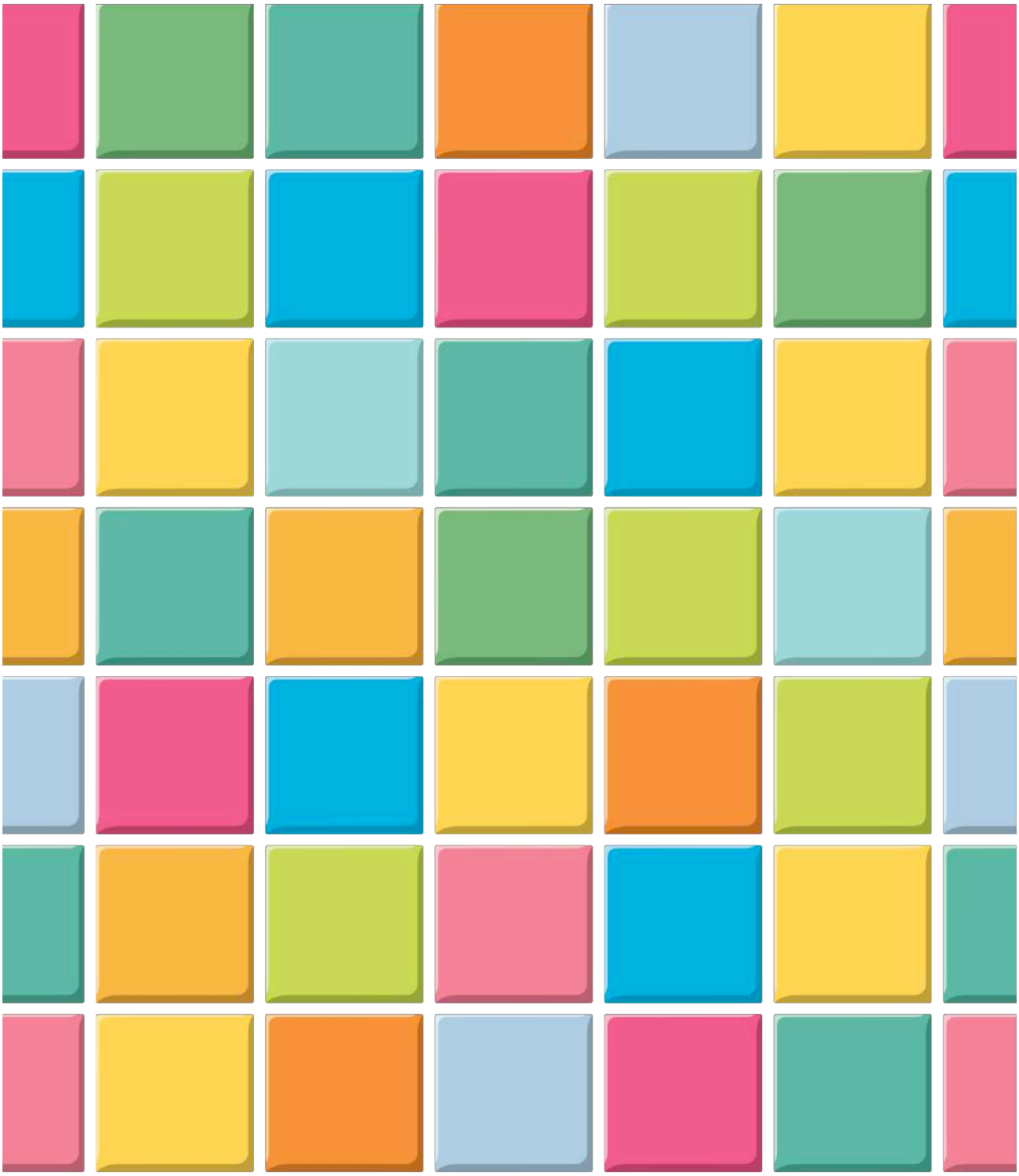


ベップ・アート・マンス 2010

11月の別府はアート月間！展覧会やダンス、音楽、演劇など、市内各所でさまざまな団体がアートイベントを開催します。

2010年11月1日〈月〉→ 30日〈火〉 会場：別府市内各所

※広報物のメインビジュアルは、多様なアートと公衆浴場のタイルをイメージしてデザインされました。

事業報告書　＜2011年1月31日版＞

目　次

第１節　はじめに　p.3

第２節　開催概要　p.4
（１）開催経緯
（２）開催クレジット
（３）インフォメーションセンター＆問合わせ先

第３節　開催記録　p.7
（１）開催プログラムについて
　1-1 プログラム実施者一覧
　1-2 全体スケジュール
　1-3 会場マップ
（２）各プログラムの実施記録
（３）BPの取り組み
　3-1 趣旨
　3-2 販売数／使用数
　3-3 参加店舗の声
（４）広告換算
（５）成果と今後の課題
　5-1　開催プログラムについて
　5-2　BPの取組みについて

第４節　運営面の検証　p.30
（１）事務局サポートについて
（２）実施者からの声
（３）サポートの検証

第５節　アンケート　p.35

第６節　開催による評価　p.37

第７節　総括／今後に向けて　p.39

第１節　はじめに

温泉観光都市として世界的にも高名な大分県別府市は、近年、「別府アルゲリッチ音楽祭」の開催 (1998年〜)や、文化庁の委嘱事業など数多くの芸術振興事業が実施されるようになり、文化芸術の町としても知られるようになっている。最近では、別府市中心市街地の空き店舗をリノベーションの上、文化施設としてコンバージョンを行うplatform事業※1や、平成21年度に開催した別府現代芸術フェスティバル2009「混浴温泉世界」(以下、「混浴温泉世界2009」)により、多数の全国メディアに紹介されるなど※2、大きな注目を集めている。

文化芸術分野でのこうした動きは、1990年代以降の温泉地再生に向けての市民レベルでの取組みを基盤としながら展開されてきたものである。とくに、2001年から始まる「ハットウ・オンパク」(別府八湯温泉泊覧会)は、地域資源の体験型イベントを通じてサービス事業者の育成を図るものであり、今日では、全国約30カ所の地域がその手法を取り入れるなど、その取組みは高く評価されている。

これらの試みによって別府市は、平成21年度の文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)を受賞した。これは、文化芸術の力により、市民参加で地域の活性化に取り組み、成果を挙げている市町村を表彰するもので、大分県での受賞は別府市が初、九州では沖縄市に次ぎ二番目の受賞であった。

魅力ある地域づくりにおいては、単一の価値観ではなく、多様性を受け入れ変化に対応した地域社会を支える文化基盤の創出を欠かかすことはできない。今後別府市は、従来の観光地としてのイメージに加え、国内有数の文化創造都市としての新たな魅力を造成し、地域活性の独自の手法確立が期待されている。

そのためには、別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会(以下、実行委員会)の主催事業として2012年に予定している次回の「混浴温泉世界」をどのような事業として育てていくか、これまでの成果を分析し、内外の有識者らのアドバイスも得ながら、再構築していく必要があるだろう。

本事業「ベップ・アート・マンス 2010」は、以上のような経緯と問題意識にもとづき、「混浴温泉世界2009」を通じて提起された、相対する課題の解決※3、すなわち、より多くの市民が参加しやすい仕組み作り、間口の広い地域活性化事業の実現を図るために企画した、多様な主催者が参画するプラットフォーム型アートイベントとして企画・実施されたものである。

「混浴温泉世界2009」開催以降、別府市では規模は大小あるが、ダンスや音楽、演劇など多種多様なアートイベントを自主的に行う動きが生まれてきた。本事業は、こうした多彩な活動を１つの大きなプログラムとしてまとめ上げることをつうじて、別府市＝アートの街という新たな魅力の造成をより高い次元で実現しようとするものであった。

本事業は、別府らしい芸術振興事業の確立へ向けた第一歩とし、さらに、関係者はじめ、市民とともに、次回の「混浴温泉世界」の目的構築と方向性について考え、共有する機会とすべく開催された。

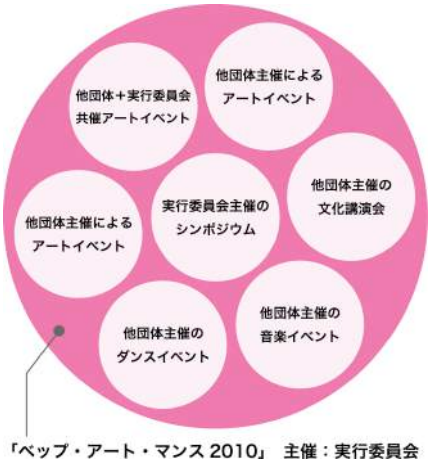
※１　計画者が平成20年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞(芸術振興部門)を受賞し、また設計者がデザイン賞(JCDデザインアワード2009銀賞)を受賞している。

※２　メディア露出広告換算合計で約29億円の実績を上げている。

※３　別府現代芸術フェスティバル2009「混浴温泉世界」で配布したアンケート(報告書「第4章アンケート調査とその分析」)や、会場でのヒアリングによると県外客は概ねアート愛好家が多いのに対し、県内客はこの種のイベント参加が初めての方が多く、県外客のより質を高めて欲しいという声と県内客の分かりやすい企画や入りやすい仕組みを作るべきだという意見にわかれた。

第２節　事業概要

本事業は、登録された様々な団体が別府市各所で開催する文化芸術振興事業やアートイベントを総称して「ベップ・アート・マンス　2010」(以下、「アート・マンス2010」)とするものであり、　11月１日～30日の1ヶ月間にわたり開催された。これは、別府市における文化芸術の振興、鑑賞機会の充実、芸術家の発表機会の提供、集客交流人口の増加を目的とした、多様な事業の集合体によるプラットフォーム型事業としての社会実験でもあった。



別府市との共催で開催した「混浴温泉世界2009」終了後に行ったアンケートや市民へのヒアリングによって、つぎのような課題が明らかとなった。

・県外来場者に比べ、別府市・大分県内からの地元からの来場が少なかったこと。
・幅広く市民も参画できるような企画にして欲しいという要望があったこと。
・フェスティバル自体の地元への周知度が低かったこと。

そこで「アート・マンス2010」では、これらの課題への対応として、文化・芸術に関する活動をしている団体・個人に、規模の大小に関係なく広く企画を公募し、より多くの人々が事業主体として参画できるような仕組みとした。また、これらの団体・個人が一体となって運営や広報に取り組めるよう、パンフレットやチラシ等の広報については共通化を図るとともに、BPという金券を導入し、有料企画に関しては共通の金券での企画参加を可能にした。さらに、これらの団体・個人が負担にならず当事業に参画できるように、広告物の作成、チケット販売、予約受付などを事務局が代行する仕組みを構築した。

これらの仕組みによって、より多くの市民が企画に参画する事が可能となり、「混浴温泉世界2009」とはまた違った層の市民が事業主体として参画する事が可能となることが期待された。そして、参画した市民それぞれの口コミや、チラシ等での広報により、より広く市民に当事業を知ってもらう機会にし、地元に対する企画の周知を広めることにもつながるであろうというねらいもあった。

また、「アート・マンス2010」では、2012年に開催予定のフェスティバルの方向性について議論するための円卓会議を開催し、実行委員会、様々な有識者、市民がそれぞれの立場で意見を交わした。これは、次回のフェスティバルに対する市民の関心を高め、多くの市民にフェスティバルへの参画を促す礎とするためであった。

（1）開催経緯

平成 21 年度

「混浴温泉世界 2009」

・総参加者数＝約 92,000 人（のべ人数）
・直接経済効果＝49,686,000 円
・メディア露出広告換算合計＝2,869,870,935 円

アンケートやヒアリング調査によると、県外客は概ねアート愛好家が多いのに対し、県内客はこの種のイベント参加が初めての方が多く、県外客のより質を高めて欲しいという声と、県内客の分かりやすい企画や入りやすい仕組みを作るべきだという意見にわかれた。

＋

「オンパク」や「路地裏散策」
「アルゲリッチ音楽祭」、
「platform 事業」など
別府市内での多数の試み

→

平成 21 年度の文化庁長官表彰を別府市が受賞
（文化芸術創造都市部門）

文化芸術の力により、市民参加で地域の活性化に取り組み、成果を挙げている市町村を表彰するもので、大分県での受賞は別府市が初で、九州では沖縄に次ぎ２番目の受賞となる。

魅力ある地域づくりにおいては、単一の価値観ではなく、多様性を受け入れ変化に対応した地域社会を支える文化基盤の創出が欠かせない。今後別府市は、従来の観光地としてのイメージに加え、国内有数の文化創造都市としての新たな魅力を造成し、地域活性の独自の手法を確立することが期待されている。

次回の「混浴温泉世界」をどのような事業として育てていくか、これまでの成果を分析し、内外の有識者らのアドバイスもいただきながら、改めて再構築していく必要があるだろう。

課 題

①別府市ならではの芸術祭の確立
②市民が関わりやすい仕組み作り
③地域との連携
④経済基盤の確立と事務局の整備

⇩

平成 22 年度

「ベップ・アート・マンス 2010」

会期：2010 年 11 月 1 日（月）～30 日（火）
目的･概要：2010 年 11 月の 1 ヶ月間､別府市各所で開催するアートイベントを総称して､「ベップ･アート･マンス 2010」とする。これは、別府市における現代芸術振興促進、鑑賞機会の充実、芸術家の発表機会の提供を目的とした、登録による多様な事業の集合体、プラットフォーム型事業としての社会実験である。
また、会期中に「別府現代芸術フェスティバル 2009　混浴温泉世界」を振り返り、2012 年に開催予定の「混浴温泉世界 2012」にむけて、関係者や市民とともに「混浴温泉世界 2012」の目的構築と方向性について考え、共有することを目的とした「混浴温泉世界シンポジウム 2010」を開催した。

⇩

平成 23 年度

「ベップ・アート・マンス 2011」の開催

「混浴温泉世界シンポジウム 2011」の開催
（「混浴温泉世界 2012」の具体的内容を発表）

⇨

平成 24 年度

混浴温泉世界 2012

別府市独自の芸術振興事業の創出、集客交流人口の増加と多様化、人材育成を目的とする国際現代芸術フェスティバルの開催

（2）開催クレジット

主催：別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会
会期：11月1日(月)～30日(火)
会場：別府市内各所
協賛：(株)トキハ別府店／(株)大分銀行別府支店／大分みらい信用金庫／ (株)イズミゆめタウン別府／(株)マルショク／ ツーリズムおおいた／ 別府商工会議所／ 別府市観光協会／ 別府旅館ホテル組合連合会／ 別府市中心市街地活性化協議会／NPO法人BEPPU PROJECT
後援：大分県／別府市／大分県教育委員会／別府市教育委員会／ツーリズムおおいた／別府商工会議所／別府市観光協会／別府市旅館ホテル組合連合会／別府市中心市街地活性化協議会／別府市商店街連合会／別府料飲協同組合／大分県民芸術文化祭実行委員会／大分県芸術文化振興会議／大分合同新聞社／朝日新聞社／毎日新聞社／読売新聞西部本社／日本経済新聞社大分支局／西日本新聞社／共同通信社／今日新聞社／NHK 大分放送局／OBS 大分放送／TOS テレビ大分／OAB 大分朝日放送／エフエム大分／CTB メディア／シティ情報おおいた／CONKA
料金：企画によって異なる　※「ベップ・アート・マンス2010」会期中は、参加企画への支払いはBPの使用が可能

公式HP：http://www.mixedbathingworld.com/bam2010/

（3）インフォメーションセンター＆問合わせ先

インフォメーションセンター：　■platform03［まちなかカフェ］　(10月1日～11月30日)
別府市楠町４-８(12:00～18:30／定休日　10月＝火　11月＝無休)

BP販売箇所：
■ インフォメーションセンター［platform03］
■ platform04 (12:00～18:30　休＝月、火、水)
■ platform08 (12:00～20:00　休＝火、最終月曜)
■ 別府市観光協会別府駅案内所
■ 市内旅館、ホテル (野上本館、ホテルニューツルタ、ホテルアーサー)
■ 市内商店 (八宝堂、セスナ、むら上、和雑貨 綺ら羅)

パンフレット設置箇所
■ インフォメーションセンター＆BP販売箇所
■ BP加盟店舗・施設
■ 実行委員会関係者 (別府市役所文化国際課、別府市観光協会等)所属先
■ 別府市内旅館・ホテルのロビー (協力：別府市旅館ホテル組合連合会)
■ 各platform
■ 各プログラム実施者

問合せ窓口：別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会　事務局
別府市汐見町9-1観光港第3埠頭ターミナル2F　(NPO法人BEPPU PROJECT内)
Tel：0977-22-3560　Fax：0977-75-7012　E-mail：info@mixedbathingworld.com
10:00～18:00　休＝土、日、祝

第３節　開催記録

（1）開催プログラムについて

当事業では、公募により集まった27団体・個人による43の企画が実施された。

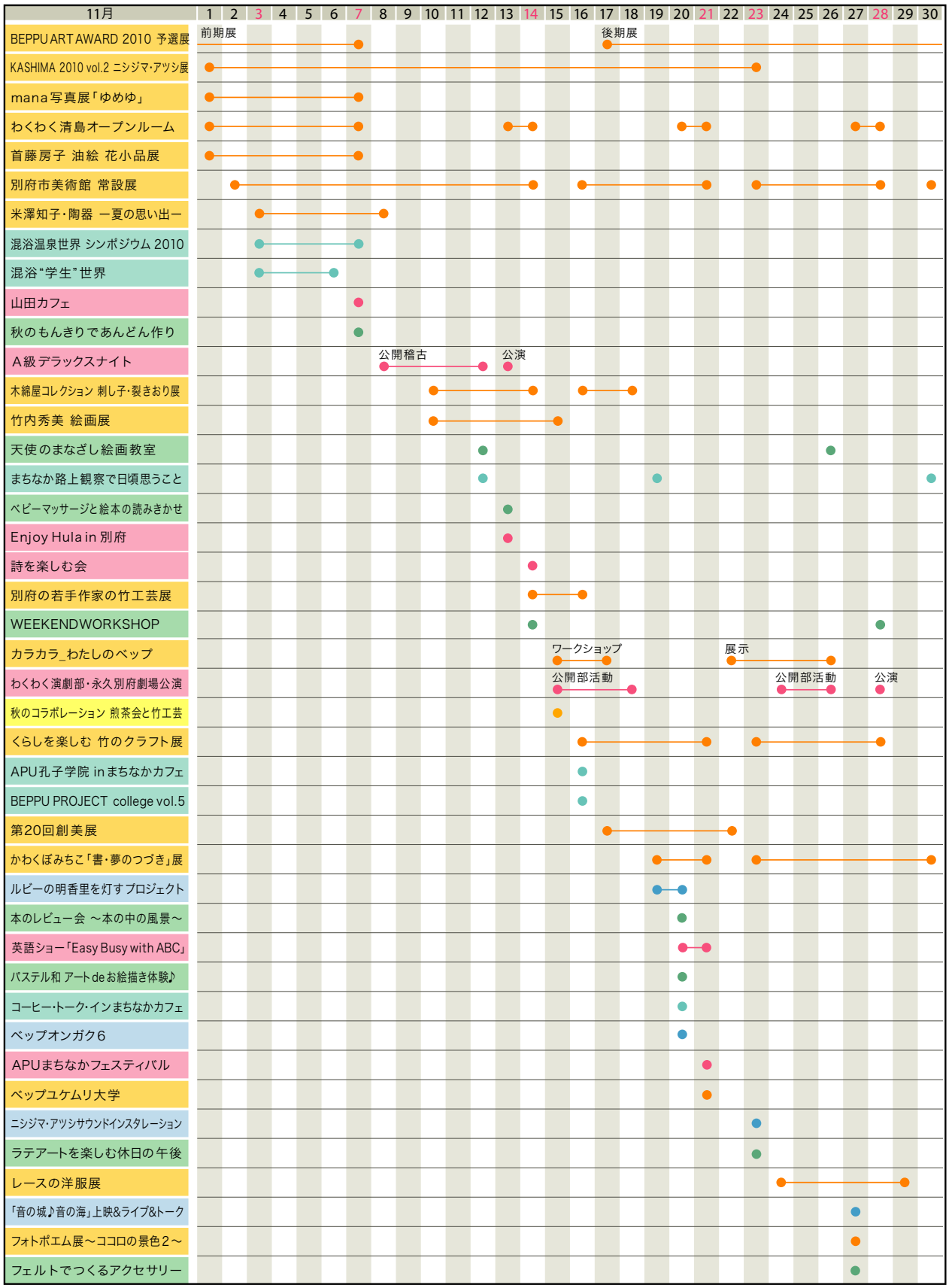
1-1プログラム実施者

※順不同

	団体名	企画名
1	別府現代芸術フェスティバル 「混浴温泉世界」実行委員会 NPO法人 BEPPU PROJECT	混浴温泉世界シンポジウム 2010
2	NPO法人 BEPPU PROJECT	BEPPU ART AWARD 2010　予選展
		KASHIMA 2010 BEPPU ARTIST IN RESIDECE vol.2 ニシジマ・アツシ「音の方便 -干渉のアナロジー -」
		mana写真展「ゆめゆ」
		WEEKEND WORKSHOP
		BEPPU PROJECT college vol.5 アートフェスティバル・レポート
3	神戸大アートマネジメント研究会	混浴”学生”世界 ～学生による、学生のためのフォーラム～
4	友永えり	カラカラ＿わたしのベップ
5	NPO法人 別府八湯トラスト	ベップユケムリ大学 omachi de omatsuri　文化発表会
6	木村三恵	フォトポエム展　～ココロの景色２～
7	別府♨レッグウォーマーず	山田カフェ ～山田別荘でお茶を飲みながら楽しむ午後のダンス～
		A級デラックスナイト
8	詩人にぎにぎ （木村永遠・詩をみんなのそばに届け隊）	詩を楽しむ会
9	わくわく演劇部	わくわく演劇部・永久別府劇場公演
10	株式会社　イーコンセプト	地産地消でフレッシュなルビーの 明香里を灯すプロジェクト
11	cemi-tu’pui	APUまちなかフェスティバル　プレイベント

12	裏 正亘（ギャラリーブルーバレーン）	ニシジマアツシ／サウンドインスタレーション
		映画「音の城♪音の海ーSOUND to MUSICー」 上映＆ライブ＆トーク
13	山田 るみ	秋のコラボレーション　煎茶会と竹工芸
		別府の若手作家の竹工芸展
14	清島アパート使用クリエーター	わくわく清島オープンルーム
15	ベップオンガク実行委員会	ベップオンガク6「別府音楽革命の夜明け」
16	蔵ギャラリー しばた・柴田初子	油絵 花小品展 首藤房子
		刺子・裂きおり展 木綿屋コレクション
		書・夢のつづき展 かわくぼみちこ
17	platform04 BOOK CAFE ×SELECT BEPPU	秋のもんきりであんどん作り
		ベビーマッサージと絵本の読みきかせ
		本のレビュー会　～本の中の風景～
		フェルトでつくるアクセサリー
18	二宮 敏泰（天使のまなざし絵画教室）	一本の鉛筆で夢を描く・天使のまなざし絵画教室
19	ギャラリーおおの・大野栄子	米澤知子・陶器　ー夏の思い出ー
		竹内秀美　絵画展
		第20回創美展
		レースの洋服展
20	一般社団法人ディスレクシア支援協会 馬場信子	英語ショー「Easy Busy with ABC」
21	Huio Mauolioli　（o Mapuana） 小野美代子	Enjoy Hula in 別府
22	Tresfle（吉田久美子）	パステル和（NAGOMI）アートdeお絵描き体験♪
23	別府市美術館	別府市美術館 常設展　～近代作家の作品を中心に～
24	「竹・ルネサンス」実行委員会	くらしを楽しむ　竹のクラフト展
25	土田 しんいち	まちなか路上観察で日頃思うこと
26	立命館アジア太平洋大学孔子学院	APU孔子学院 in まちなかカフェ 中国を知る夕べ ～中国の結婚事情～
27	別府・流川通りAPUさくらまちラボ まちなかカフェ	コーヒー・トーク・インまちなかカフェ ～アートと地域、対話空間のデザイン～
		ラテアートを楽しむ休日の午後 ～ワークショップ＆試飲会～

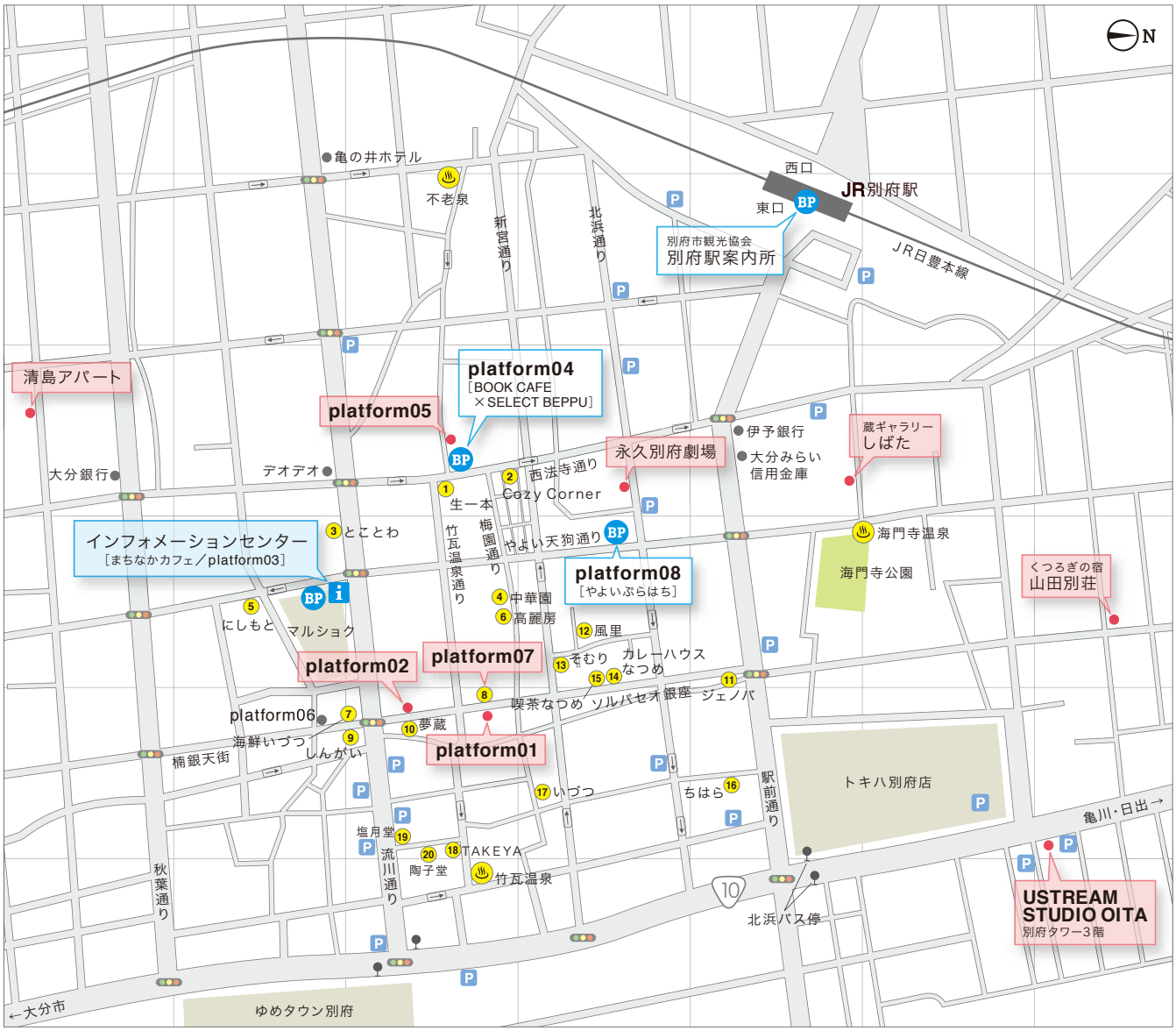
1-2 全体スケジュール


11月
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
BEPPU ART AWARD 2010 予選展
前期展
後期展
KASHIMA 2010 vol.2 ニシジマ・アツシ展
mana写真展「ゆめゆ」
わくわく清島オープンルーム
首藤房子 油絵 花小品展
別府市美術館 常設展
米澤知子・陶器 ー夏の思い出ー
混浴温泉世界 シンポジウム 2010
混浴“学生”世界
山田カフェ
秋のもんきりであんどん作り
A級 デラックスナイト
公開稽古
公演
木綿屋コレクション 刺し子・裂きおり展
竹内秀美 絵画展
天使のまなざし絵画教室
まちなか路上観察で日頃思うこと
ベビーマッサージと絵本の読みきかせ
Enjoy Hula in 別府
詩を楽しむ会
別府の若手作家の竹工芸展
WEEKENDWORKSHOP
カラカラ_わたしのベップ
ワークショップ
展示
わくわく演劇部・永久別府劇場公演
公開部活動
公開部活動
公演
秋のコラボレーション 煎茶会と竹工芸
くらしを楽しむ 竹のクラフト展
APU孔子学院 inまちなかカフェ
BEPPU PROJECT college vol.5
第20回創美展
かわくぼみちこ「書・夢のつづき」展
ルビーの明香里を灯すプロジェクト
本のレビュー会 ～本の中の風景～
英語ショー「Easy Busy with ABC」
パステル和 アートdeお絵描き体験♪
コーヒー・トーク・インまちなかカフェ
ベップオンガク6
APUまちなかフェスティバル
ベップユケムリ大学
ニシジマ・アツシサウンドインスタレーション
ラテアートを楽しむ休日の午後
レースの洋服展
「音の城♪音の海」上映&ライブ&トーク
フォトポエム展～ココロの景色2～
フェルトでつくるアクセサリー

1-3 会場マップ

当事業で使用された会場を下記のマップに示す。

中心市街地



（2）各プログラムの実施記録

以下では、全プログラムの概要や、集客数を記す事とする。
全プログラムの集客数の総計は3,930名であった。

■ 混浴温泉世界シンポジウム 2010

別府現代芸術フェスティバル2009「混浴温泉世界」を振り返り、2012年開催予定の「混浴温泉世界」のコンセプトを設計するシンポジウムとして企画された。 文化・芸術を軸に、地域資源、商業振興、コミュニティの３つのテーマにそった連続プレゼンテーションが行われ、これをもとに円卓会議が設けられた。

実施者：別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会、NPO法人BEPPU PROJECT
助　成：財団法人　文化・芸術による福武地域振興財団
日　時：11月3日(水)〜7日(日)
場　所：platform01、永久別府劇場(シンポジウム)※ツアー会場に関しては後に記載
料　金：1日券：5BP(500円)　通し券：15BP(1500円)　ツアー参加料金：15BP(1500円)

モデレーター：芹沢高志 (P3 art and environment エグゼクティブ・ディレクター、
別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」総合ディレクター)
パネリスト：吉本光宏 ((株)ニッセイ基礎研究所 主席研究員・文化芸術プロジェクト室長)
藻谷浩介 ((株)日本政策投資銀行 地域企画部 地域振興グループ参事役)
秋元雄史 (金沢21世紀美術館 館長)
曽我部昌史 (建築家　神奈川大学教授／みかんぐみ共同主宰)
藤野一夫 (神戸大学大学院 国際文化学研究科 教授)

スケジュール

３日　集客数：80名
14:00〜14:45 「ベップ・アート・マンス 2010」紹介　プログラム実施者によるアピール
14:45〜15:00 混浴温泉世界シンポジウム2010の目的発表
15:00〜17:00 基調講演：吉本光宏

４日　別府ツアー　集客数：25名
10:50 集合 竹瓦温泉
11:00 竹瓦かいわい路地裏散歩
11:00-11:10 竹瓦温泉・竹瓦小路　ソルパセオ銀座商店街→梅園温泉、platform 01,02,07,08→やよい商店街
11:30-11:40 駅前高等温泉
11:50-12:00 別府駅手湯体験・熊八像
12:20-13:30 明礬湯の里
13:35-13:45 十文字原展望台
14:00-14:30 海地獄
14:40-15:40 鉄輪湯けむり散歩
15:40-16:10 地獄蒸し工房
16:15-16:25 湯けむり展望台
16:45別府駅到着

５日　集客数：100名
11:00〜12:30 プレゼン①
「別府の地域活性化と文化芸術」：藻谷浩介
14:00〜15:30 プレゼン②
「地域資源と文化芸術」：秋元雄史
16:00〜17:30 円卓会議①

６日　集客数：70名
11:00〜12:30 プレゼン③「街のリソースのリサイクル」：曽我部昌史
14:00〜15:30 プレゼン④「コミュニティと文化芸術」：藤野一夫
16:00〜17:30 円卓会議②

７日　集客数：60名
11:00〜12:00 「混浴温泉世界シンポジウム2010」まとめ
13:30〜15:00 円卓会議③

■ BEPPU ART AWARD 2010　予選展

大分県内にゆかりのある40歳以下の若手作家を対象とした公募展を開催した。8名の作家による予選展を前期・後期に分けて開催し、グランプリ作家1名を選出した。2011年1月にグランプリ展 (個展)を開催する。

実施者：NPO法人BEPPU PROJECT
日　時：前期展　10月20日(水)～11月7日(日)
　　12:00～19:00 (最終入場18:30)
　　後期展　11月17日(水)～12月5日(日)
　　12:00～19:00(最終入場18:30)
　　※共に火曜日休み
場　所：platform02
料　金：無料
参加アーティスト：前期展　勝正光／木村由紀／豚星なつみ／森貴也
　　後期展　井上和子／大倉悠輝／加藤亮／高柳充希子
集客数：前期展　310名、後期展　305名

■ KASHIMA 2010 BEPPU ARTIST IN RESIDECE vol.2
ニシジマ・アツシ「音の方便 - 干渉のアナロジー - 」

「KASHIMA」とは、別府の温泉文化の中で生まれた「貸間」を語源とするアーティスト・イン・レジデンス事業である。当事業会期中は、京都在住のアーティスト、ニシジマ・アツシが2010年9月に別府の長屋の一室に滞在し、制作した作品を発表する展覧会を開催した。

実施者：NPO法人BEPPU PROJECT
日　時：11月1日(月)～23日(火) 12:00～19:00
　　(最終入場18:30) ※火曜日休み
場　所：platform05
料　金：1BP
アーティスト：ニシジマ・アツシ
集客数：121名

■ mana写真展「ゆめゆ」

フォトグラファーでありアーティストであるmanaの写真展「ゆめゆ」を開催した。彼女の作品からは、別府にある目には見えない記憶、ぬくもり、愛情などを感じることができた。

実施者：NPO法人BEPPU PROJECT
日　時：11月1日(月)～7日(日) 12:00～19:00
場　所：永久別府劇場

料　金：1BP
アーティスト：mana
集客数：157名

■ WEEKEND WORKSHOP

「WEEKEND WORKSHOP」とは、毎月第１・第３日曜日にplatform01にて開催される、クリエーター (アーティスト、デザイナーなど)によるワークショップである。週末に公園にでかけるように、気軽にアート体験が楽しめる場を提供した。

実施者：NPO法人BEPPU PROJECT
日　時：11月14日(日)・28日(日) 11:00〜17:00
場　所：platform01
料　金：無料
講　師：14日　別府♨レッグウォーマーズ、28日 大橋重臣
集客数：14日　11名、28日　10名

■ BEPPU PROJECT college vol.5
アートフェスティバル・レポート

BEPPU　PROJECTの最新の情報を提供し、ビジョンや知識、技術を共有・交換する勉強会。BEPPU　PROJECT collegeは、プレゼンテーションや意見交換を通じて現代アートの楽しみ方や別府の魅力を再発見し、BEPPU PROJECTの活動への理解を深める場である。11月に開催したBEPPU PROJECT　collegeはベップ・アート・マンス特別編として、日本各地で行われているアートフェスティバルについて、BEPPU PROJECTスタッフが報告した。

実施者：NPO法人BEPPU PROJECT
日　時：11月16日(火) 19:00〜20:00
場　所：platform01
料　金：無料
集客数：33名

■ 混浴”学生”世界
〜学生による、学生のためのフォーラム〜

本学生フォーラムでは、学生らが各大学より集い、アートマネジメントに関する各々の研究内容や経験を踏まえディスカッションを行った。

実施者：神戸大アートマネジメント研究会
日　時：11月3日(水)〜6日(土) 19:00〜21:00
場　所：platform01
料　金：無料
集客数：約80名

■ カラカラ＿わたしのベップ

大好きな友達、自慢の部屋、お気に入りのお店など、別府に滞在している人だけが知っている「わたしのベップ」。それを絵画やコラージュ、写真など、色んな材料や方法で自由に表現した紙で立方体を制作し、天井から吊るした。言葉にならない思いの箱がたくさん集まり、会場に笑い声のような楽しい音がカラカラと響いた。

実施者：友永えり
日　時：ワークショップ　15日(月)～17日(水) 11:00～18:00
※16日は16:00まで
　　展示　22日(月)～26日(金) 12:00～19:00
場　所：platform01
料　金：無料
集客数：ワークショップ　約30名、展示　約60名

■ ベップユケムリ大学　omachi de omatsuri　文化発表会

ベップユケムリ大学第２期(2010年4月～11月)閉講式と開催期間中に関わった関係者＆無関係でも今後接点を持つ団体・個人のそれぞれの【文化】(暮らしをより豊かにする工夫)の発表会。また成果物の展示・販売。メイン会場をplatform01とし、サブ会場に07、08、そして商店街のいくつかの場所で展開した。

実施者：NPO法人 八湯トラスト
日　時：11月21日(日) 13:00～18:00
場　所：platform01、platform07、platform08
料　金：販売グッズ他　100円～500円
出演者：ゆらゆらチンドン隊(宇宙図書館)、APU落語研究会、柳キクイモ会、幸作屋、陶子堂、e-KAMISHIBAI隊、NPO法人べっぷ未来塾、別府市外国人旅行者受入協議会
当日プログラム：広報パレード(ゆらゆらチンドン隊)、ストリート落語、手作り手芸展(小物販売)、柳直送野菜販売、「パワーリース」作り、e-KAMISHIBAI、写真展(近代化遺産)
集客数：約80名

■ フォトポエム展　～ココロの景色２～

風景や日常などの写真に自作詩を絡らませたビジュアルアートのパネル作品展示。言葉や詩を素材にして、遊び心たっぷりオシャレにビジュアル展開した。フォトポエムを使ったオブジェ作品も展示。ご来場の方には、フォトポエムのオリジナルポストカードを先着順でプレゼントした。

実施者：木村三恵

日　時：11月27日(土) 11:00～19:00
場　所：platform01
料　金：無料
集客数：30名

■ **山田カフェ**
～山田別荘でお茶を飲みながら楽しむ午後のダンス～

今年築80周年を迎えた温泉旅館「山田別荘」を舞台に、ダンサー・振付家の北村成美が演出する、観客参加型の一日限りのオープン・ダンスカフェイベントを行った。

実施者：別府♨レッグウォーマーず
日　時：11月7日(日) 13:00～　15:00～
場　所：くつろぎの宿　山田別荘
料　金：15BP(1500円)(山田別荘入場料・ダンス観賞料・お茶とお茶菓子・温泉付)
出演者：踊る女将(総合演出)　北村成美、本物女将(ダンサー・支配人)　山田るみ、踊るカフェガール(ダンサー・給仕)　別府♨レッグウォーマーず
友情出演：庭師、お手伝いさん、マッサージ師　ほか
集客数：のべ40名

■ **A級デラックスナイト**

廣瀬剛

ダンサー・振付家の北村成美を総合演出に招き、永久別府劇場に老若男女の市民約30名が集まり、別府・コミュニティダンス作品「A級デラックスナイト」を製作・上演した。別府ダンスの魅力を世界に発信するべく、あらゆる世代のエネルギーが弾ける、一大レヴューショーを挙行！

実施者：別府♨レッグウォーマーず
日　時：11月13日(土) 15:00～　18:00～
　　公開稽古：11月8日(月)～12日(金) 15:00～
場　所：永久別府劇場
料　金：6BP(600円)
集客数：のべ95名

■ **詩を楽しむ会**

短歌、俳句、川柳、散文、日記、つぶやき、叫び、ラップ、お笑い・・・等、感じた事等を詩にして読む会を開催した。

実施者：詩人にぎにぎ
　　(木村永遠・詩をみんなのそばに届け隊)
日　時：11月14日(日) 19:00～21:00
場　所：永久別府劇場
料　金：無料
集客数：8名

■ **わくわく演劇部・別府永久劇場公演**

「わくわく演劇部」は劇団員は特定せず、そのとき、その場所に集まった特に演劇が上手いわけでもないメンバーで台本を考え、その場で作り上げ、作品がうまれる瞬間そのものを共有する演劇。誰でも参加可能な演劇という場で、永久別府劇場ならではの繋がりを生むことを目指し、開催した。

実施者：わくわく演劇部
日　時：公開部活動　11月15日(月)～18日(木)
　　24日(水)～26日(金) 12:00～20:00
　　公演　11月28日(日)
場　所：永久別府劇場
料　金：800円(前売り700円)
集客数：45名

■ **地産地消でフレッシュなルビーの明香里を灯すプロジェクト**

山里でしぼった天然のろうとフレッシュな香り精油をろうそくの材料で使用し、会場全体をデコレーションした。その中で、ダンスやフルート、アコースティックギター等の公演を行った。

実施者：株式会社イーコンセプト
日　時：11月19日(金)、20日(土)
場　所：永久別府劇場
料　金：5BP(500円)
出演者：ウテナ・アランビアン・ダンサーズ、オカリナグループアリエッタ、epicure、フルート・アンサンブル・ヒュウ、フルートトリオ、スキップ、溝口伸一、ジョリカンフルートアンサンブル
集客数：50名

■ **APUまちなかフェスティバル　プレイベント**

APUの学生による多国籍のパフォーマンスイベント。これまでAPU校内でしか行われる事のなかった、様々な国や地域の学生による、各国の伝統芸能や国際色豊かなダンスや音楽を一晩で楽しんでいただけるイベントを開催した。

実施者：cemi-tu'pui
日　時：11月21日(日)18:00～19:30
場　所：永久別府劇場
料　金：無料
出演者：サムルノリチーム「シンミョン」、タイウィーク、サルサ
集客数：34名

■ **ニシジマアツシ／サウンドインスタレーション**

音で構成されていく空間とそのために行われる行為。

実施者：裏 正亘(ギャラリーブルーバレン)
日　時：11月23日(火) 19:00～21:30
場　所：永久別府劇場
料　金：1000円
出演者：ニシジマ・アツシ
集客数：25名

■映画「音の城♪音の海ーSOUND to MUSICー」
上映＆ライブ＆トーク

知的な障害をもつ人たちと、音楽療法家、音楽家(大友良英ほか)たちによる即興演奏。「音の城♪音の海ーSOUND to MUSICー」は「音遊びの会」が公演までに重ねたセッションと対話をつづったドキュメンタリー映画である。今回の別府上映では服部智行監督、音遊びの会代表沼田里衣をはじめ青木しおり、中島香織、濱翼、藤本優、本間知子、みやけをしんいち、三好佑佳、森大生らが来別。大分在住の音楽家とのスペシャル即興ライブやトークを開催した。

実施者：裏 正亘(ギャラリーブルーバレン)
日　時：11月27日(土)
　　第一部 14:00～17:00　上映、音遊びの会＆おとらぼ
　　ライブ、トーク
　　第二部 19:00～21:00　上映、トーク
場　所：永久別府劇場
料　金：第一部　20BP(2000円)　第二部　15BP(1500円)
出演者：服部智行(監督)、沼田里衣(音遊びの会 代表)、音遊びの会、おとらぼ
集客数：50名

■ 秋のコラボレーション　煎茶会と竹工芸

伝統的な建物の中に、中臣氏の現代的な作品を配置し、その空間で煎茶道・東阿部流のお点前で入れた玉露の美味しいお茶を提供。かしこまったお茶会ではなく、誰でも気軽に参加する事ができる企画となった。

実施者：山田るみ
日　時：11月15日(月) 11:00～　13:00～
場　所：くつろぎの宿　山田別荘
料　金：500円
集客数：14名

■ 別府の若手作家の竹工芸展

今、日本の竹工芸は、国内よりも海外にコレクターが多く存在し、世界的に美術的評価が高まっている。日本の他の竹工芸産地が亡くなりつつある中で、別府竹工芸は、日本の竹工芸の聖地とも言うべき存在であり、最後の砦として現在でも多くの竹工芸家を輩出している。別府が世界的に有名なのは、温泉だけではなく、竹工芸も大きな伝統文化遺産として知られている。その別府竹工芸の一端を、別府の老舗旅館においてお茶を味わいながら、提供した。

実施者：山田るみ
日　時：11月14日(日)～16日(火) 11:00～15:00
場　所：くつろぎの宿　山田別荘
料　金：500円
集客数：17名

■ わくわく清島オープンルーム

2009年春「わくわく混浴アパートメント」で賑わった清島アパート。現在は８組のクリエイターが活動拠点として各１部屋使用している。当事業では清島アパート１階を公開し、多ジャンルな現在の清島アパート使用者の活動を紹介した。

実施者：清島アパート使用クリエイター
日　時：11月1日(月)～7日(日)、13日(土)、14日(日)、 20日(土)、21日(日)、 27日(土)、28日(日)
14:00～19:00
場　所：清島アパート
料　金：無料
集客数：286名

■ ベップオンガク6「別府音楽革命の夜明け」

ロック、ジャズ、ノイズ、電子音楽、アートの全ての要素を含んだコンサートとマーケットを開催。別府から音楽にまつわる物語が生まれる。街に音が溶け込み、さらに新しい音を奏でる。この土地に様々な音楽家が集い、音楽を軸に新しい文化を生み出す。そこには、既成概念にとらわれない、未知の価値観と自由な発想が芽生えていくことを信じています。

実施者：ベップオンガク実行委員会
日　時：11月20日(土) 14:00～24:00
場　所：別府タワー３階　USTREAM STUDIO OITA
料　金：前売　3,500円／当日　4,500円／ 団体割引(5名分)=14,000円 ※前売のみ／ 学生割引=2,500円 (要学生証提示) ※前売のみ
出演者：FENNO'BERG(Jim O'Rourke/Christian Fennesz/Peter Rehberg) ／山本達久 + zeroreality／INNER SCIENCE／JOSEPH NOTHING + 吉川 弾 + タカノ綾
集客数：80名

■ 油絵 花小品展　首藤房子

首藤房子の絵画展を開催。(下記、首藤氏の言葉)

人の軋轢に疲れた時、花が私を慰めてくれた。自然に生きて。植物はどんな場所に根付いても、きっと花を咲かせようと蕾をつける。一人でも、共にでも生きる事を教わった。花を撮る時、花を描く時、私は生きていると実感する。

実施者：蔵ギャラリー しばた・柴田初子
日　時：11月1日(月)～7日(日) 11:00～17:30
※月曜休み(1日は営業)

場　所：蔵ギャラリー しばた
料　金：無料
集客数：3つの企画で計200名

■ 刺子・裂きおり展 木綿屋コレクション

刺し子は東北地方に生まれた庶民の芸術である。木綿地に木綿糸の刺し子は布の補強、防寒という実用性と生活の美を産みだした。裂きおりは捨てないをモットーに、裂いた布を横糸に用いる。明治時代の刺し子、裂きおりの仕事着、晴れ着を展示した。

実施者：蔵ギャラリー しばた・柴田初子
日　時：11月10日(水)～18日(木) 11:00～17:30
　　※月曜休み
場　所：蔵ギャラリー しばた
料　金：無料
集客数：3つの企画で計200名

■ 書・夢のつづき展　かわくぼみちこ

書家・かわくぼみちこの個展を開催。(下記、かわくぼ氏の言葉)
私の夢の一つは映画の題字を書くことでした。39歳の秋、その機会にめぐりあいました。それは同郷のプロデューサー田中和彦さんとの出会いからでした。運命的で不思議な縁と、別府に生まれたことに感謝して、40歳になった今、「書・夢のつづき」を開催した。

実施者：蔵ギャラリー しばた・柴田初子
日　時：11月19日(金)～30日(火) 11:00～17:30
　　※月曜休み
　　アーティストトーク　11月21日(日) 14：00～
場　所：蔵ギャラリー しばた
料　金：無料
集客数：3つの企画で計200名

■ 秋のもんきりであんどん作り

江戸時代の庶民に親しまれていた「もんきり」で、秋の月夜を見立てた「あんどん」を作った。

実施者： platform04　BOOK CAFE × SELECT BEPPU
日　時：11月7日(日) 14:00～16:00
場　所： platform04　BOOK CAFE × SELECT BEPPU
料　金：500円
講　師：宮川 園
集客数：5名

■ **ベビーマッサージと絵本の読みきかせ**

講師による、ベビーマッサージ教室を開催。今回はマッサージの後に絵本の読み聞かせを行った。絵本の選び方、読み方も来場者に伝えた。

実施者：platform04　BOOK CAFE × SELECT BEPPU
日　時：11月13日(土) 13:00〜14:00
場　所：platform04　BOOK CAFE × SELECT BEPPU
料　金：600円
講　師：柴田 貴子
集客数：3名

■ **本のレビュー会　〜本の中の風景〜**

町の人が呼んでいる本の感想(レビュー)を発表しあい、知を共有し、紹介された本のこと、参加者のことも知ることが出来る会である。持ってきてもらう本のテーマは「本の中の風景」で、ジャンルは問わず、小説、詩集、写真集でもその本の中の風景についてお互いに語り合う。

実施者：platform04　BOOK CAFE × SELECT BEPPU
日　時：11月20日(土) 14:00〜16:00
場　所：platform04　BOOK CAFE × SELECT BEPPU
料　金：無料
講　師：宮川 園
集客数：5名

■ **フェルトでつくるアクセサリー**

手を動かしながら感じて発見するフェルトづくりの魅力を体験。ぬるま湯と石鹸で羊毛を縮めてつくるフェルト。講師の仲摩早矢香さんは針や糸を使わずに自由に形が作れるフェルトアートに出会い、バッグやアクセサリー立体造形・絵画など幅広く制作をしている。

実施者：platform04　BOOK CAFE × SELECT BEPPU
日　時：11月27日(土) 14:00〜16:00
場　所：platform04　BOOK CAFE × SELECT BEPPU
料　金：500円
講　師：仲摩早矢香
　　(女子美術大学芸術学部ファッション造形学科卒業)
集客数：4名

■ **一本の鉛筆で夢を描く・天使のまなざし絵画教室**

一本の鉛筆があれば人でも動物でも花でも空想の世界でもなんでも描くことができる。たかが鉛筆、されど鉛筆。鉛筆画教室の公開レッスン、鉛筆画無料体験、鉛筆画作品展を同時に開催した。

実施者：二宮 敏泰(天使のまなざし絵画教室)

日　時：11月12日(金)・26日(金) 13:00～15:00
場　所：くつろぎの宿　山田別荘
料　金：無料
集客数：16名

■ 米澤知子・陶器　- 夏の思い出 -

夏の思い出をテーマに暑さとたたかいながら頑張った陶器作品の展示。また会期中、ミニコンサートをを同時開催。

実施者： ギャラリーおおの・大野栄子
日　時：11月3日(水)～8日(月) 10:00～17:30
　　※火曜日休み
場　所： ギャラリーおおの
料　金：無料
　同時開催：「むすんでひらいてコンサート」
　日時：11月3日(水・祝)14:00～
　料金：￥500
　出演者：漆間磨理(歌)、溝口伸一(クラシックギター)、波多野典子(ピアノ)、安達かすみ(フルート)
集客数：4つの企画で計150名程度

■ 竹内秀美　絵画展

「私にとって絵は自分の力をためすものであると同時に生きるための支えです。一作一作全力でぶつかっていきたいです！(竹内氏のコメント)」1983年春より自宅で本格的に勉強を始めた。体が不自由でありながら、一筆一筆思いを込めた作品の展示。

実施者： ギャラリーおおの・大野栄子
日　時：11月10日(水)～15日(月) 10:00～17:30
　　※火曜日休み
場　所： ギャラリーおおの
料　金：無料
集客数： 4つの企画で計150名程度

■ 第20回創美展

別府・日出在住の６人の作家による油絵展。風景・人物・静物画など、個性が光る色彩豊かな作品の展示。

実施者： ギャラリーおおの・大野栄子
日　時：11月17日(水)～22日(月) 10:00～17:30
　　※火曜日休み
場　所： ギャラリーおおの
料　金：無料
集客数： 4つの企画で計150名程度

■ **レースの洋服展**

普段着、お出かけ着、フォーマル着と着る人によってどんなシーンにも活用でき、流行に左右されない、母娘でいつまでも大切に着たくなるような洋服を提案する「Rei(麗)」。素材にこだわった服達の展覧会を開催。

実施者： ギャラリーおおの・大野栄子
日　時：11月24日(水)〜29日(月) 10:00〜17:30
　　※火曜日休み
場　所： ギャラリーおおの
料　金：無料
集客数： 4つの企画で計150名程度

■ **英語ショー「Easy Busy with ABC」**

アルクのkids comで連載された絵本「アルファベットのお話」を基にした子供向けの英語のショー。AからZの各文字をキャラクター化したお話(英詩)に曲を付け、歌ったり踊ったり、ステージと観客が一体となってお話の世界を提供した。

実施者：一般社団法人ディスレクシア支援協会・馬場信子
日　時：11月20日(土) 14:00受付開始　14:30開演
　　11月21日(日) 10:00受付開始　10:30開演
場　所：20日　別府市コミュニティーセンター、21日　大分国際交流会館交流ホール
料　金：前売り　10BP(1000円)、当日　12BP(1200円)、連続公演前売り　18BP(1800円)
集客数：のべ70名

■ **Enjoy Hula in 別府**

ローズ・クアオモ、ヘレン・ピーマの伝統あるスタイルで、フラを通じて和の生死や人への敬愛、そして自然への畏敬を表現したダンスを披露した。

実施者： Hui o Mauolioli (o Mapuana)・小野美代子
日　時：11月13日(土) 13:10〜13:50
場　所：別府駅構内
料　金：無料
集客数：50名

■ **パステル和(NAGOMI) アートdeお絵描き体験♪**

絵の上手い下手は一切関係なく、年齢性別を問わず、誰にでも簡単に描けてしまう『パステル和(NAGOMI)アート』。描く楽しみだけでなく、出来上がったアートを眺めているだけでも優しい気持ちになれる「癒しのアート」。実際にパステルで描き、それの展覧会を開催した。

実施者：Tresfle(吉田久美子)
日　時：11月20日(土) 10:00～17:00
場　所：platform01
料　金：500円
集客数：4名

■ 別府市美術館 常設展　～近代作家の作品を中心に～

故佐藤慶太郎の寄付金を基金に1950年に設立。ロビーからは別府湾を一望できる。 福田平八郎 、梅原龍三郎、安井曾太郎など、日本を代表するがかの日本画、洋画140点あまりを収蔵。その他、地元作家の竹工芸作品や歴史考古資料の常設展示や、現代絵画展示コーナー、郷土作家室、富永一朗漫画室などを併設している。上記作品の展覧会を開催した。

実施者：別府市美術館
日　時：11月2日(火)～30日(火) 9:00～16:00(入館は15:30まで)
※月曜休み
場　所：別府市美術館
料　金：一般・高大生　100円、小中学生　50円(土日無料)、小学生未満　無料
集客数：253名

■ くらしを楽しむ　竹のクラフト展

熟練した別府の竹職人が手仕事により作り上げる竹クラフト製品は、竹本来の美しさを活かすため、厳選した素材が用いられており、その丈夫さも折り紙つきである。繰り返し使い込むほどに味わい深さも増しまていく。今回は、2010年2月に当館に所蔵された約30点を初めて展示。類似品とは一線を画す、本物の竹クラフト製品を展示した。

実施者：「竹・ルネサンス」実行委員会
日　時：11月16日(火)～28日(日) 8:30～17:00　※月曜休み
場　所：別府市竹細工伝統産業会館
料　金：300円
集客数：794名

■ まちなか路上観察で日頃思うこと

日本・別府の文化と建築などの世間話を行った。イタリアのまちや村の話、トタンアート、自然環境やエコロジー、人々のコミュニケーションまで話を面白く人生・アートを絡めながらのトークイベント。「むずかしいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く」をモットーに雑談感覚で参加者の皆様とお話しした。

実施者：土田しんいち
日　時：11月12日(金)・19日(金)・30日(火) 14:00～16:00
場　所：platform01
料　金：無料
集客数：20名

■ APU孔子学院 in まちなかカフェ 中国を知る夕べ　～中国の結婚事情～

近年急速に発展し、人びとの暮らしにも大きな変化が起きている中国。結婚一つとってみても、文化や制度の特殊事情が見えてくる。立命館アジア太平洋大学(APU)孔子学院では、中国と日本の相互理解の促進のために、中国語講座など様々な取組みをしている。今回は当事業特別企画として、APUの中国語講師が「中国の結婚事情」をテーマに中国文化の情報を提供した。

実施者：立命館アジア太平洋大学孔子学院
日　時：11月16日(火) 19:30～21:00
場　所：platform03 別府・流川通りAPUさくらまちラボ　まちなかカフェ
料　金：無料(飲み物100円～)
講　師： 張 文青 氏(立命館アジア太平洋大学 言語教育センター講師)
カフェマスター：牧田正裕(立命館アジア太平洋大学国際経営学部教授)
集客数：7名

■ コーヒー・トーク・インまちなかカフェ　～アートと地域、対話空間のデザイン～

「場」のつくられていくプロセスをテーマに研究とデザインに取組む坂倉杏介氏を講師に迎えてのトークイベントを開催。アートと地域、そして、人と人が出会い、対話する境界としての「場」をどうデザインしていくのかを、「横浜トリエンナーレ」での活動など講師のこれまでの取組みを通じての坂倉氏によるトークイベントを開催。

実施者：別府・流川通りAPUさくらまちラボ　まちなかカフェ
日　時：11月20日(土) 14:00～16:00
場　所：platform03 別府・流川通りAPUさくらまちラボ　まちなかカフェ
料　金：無料（飲み物100円～）
講師： 坂倉杏介氏(慶応義塾大学グローバルセキュリティ研究所講師)
カフェマスター：牧田正裕(立命館アジア太平洋大学国際経営学部教授)
集客数：25名

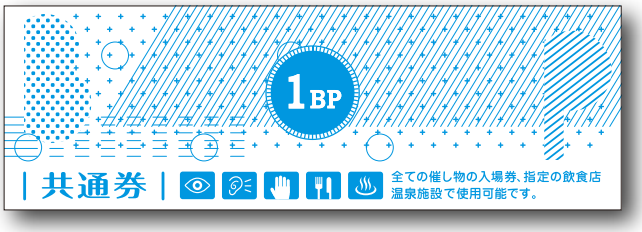
■ ラテアートを楽しむ休日の午後　～ワークショップ＆試飲会～

ラテアートの基本を学ぶワークショップを開催。試飲会では「リーフ」や「ハート」など代表的なラテを来場者が試飲した。

実施者：別府・流川通りAPUさくらまちラボ　まちなかカフェ
日　時：11月23日(火)ワークショップ　13:00～14:30　試飲会 15:00～17:00
場　所：platform03 別府・流川通りAPUさくらまちラボ　まちなかカフェ
料　金：ワークショップ　300円、試飲会　一杯200円
協　賛：ダートコーヒー(株)
集客数：ワークショップ　11名、試飲会　7名

（3）BPの取り組みについて

3-1 趣旨



「アート・マンス2010」では、有料プログラムへの参加、加盟の飲食店や温泉施設などで使用する事のできるクーポン型チケットBP(ベップポイント：通称「ビーピー」)を使用した。これは、各プログラムごとの連携を図り、集客向上を目指すとともに、積極的にまちを楽しんでもらうための仕掛けとして使用した。

BPは、2010年3月にNPO法人BEPPU PROJECTが主催で開催した「BEPPU PROJECT 2010」の際に使用され、イベントに来場した方々の多くが、イベントだけではなくBPを使用して加盟飲食店や温泉施設を利用するなどの効果が見られたため、「アート・マンス2010」でも使用することになった。

3-2 販売数／使用数

会期中にBPを使用できる加盟店と、各加盟店での使用数は下記である。当事業期間で使用された枚数は、合計1643枚(1643BP)であった。

加盟店名	使用枚数	加盟店名	使用枚数
大衆居酒屋 生一本 本店	4枚	Tea Room Cozy Corner	100枚
Japanese Dining　とことわ	5枚	中華園	56枚
にしもと	95枚	韓国風ろばた 高麗房	163枚
ふぐの専門店 海鮮いづつ	203枚	platform07	13枚
珈琲 しんがい	48枚	昭和居酒屋 夢蔵	41枚
冷乳果工房 ジェノバ	126枚	焼鳥酒屋 風里	40枚
豊後牛ステーキの店 そむり	115枚	カレーハウス なつめ	168枚
喫茶 なつめ	152枚	別府炭焼亭 ちはら	143枚
四季魚遊 いづつ	50枚	TAKEYA	67枚
塩月堂	38枚	陶子堂	26枚

また、下記の施設でも使用した。

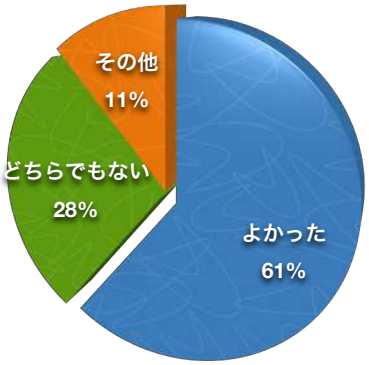
加盟施設	使用枚数	加盟施設	使用枚数
不老泉	10枚	海門寺温泉	15枚
竹瓦温泉	13枚	地獄蒸し工房 鉄輪	8枚

3-3 参加店舗の声

事業終了後、各加盟店に対しヒヤリングを行った。
以下、その結果を記す。

□ 無料の広告代について(「BEPPU PROJECT　2010」のイベントでは、広告代を10,000円徴収)

・広告代を出さずに10%の手数料は、店にとってありがたい。
・別府は、観光のまち、活性化にもっと行政から助成金をもらい、手数料もなくすべきだ。
・広告料を支払って、お互いの緊張感を持つことも必要かも。その訳は、支払わなかったせいか遠慮してこちらから、パンフの載せ方(季節が変わったのでメニュー)、電話の対応(忙しい時間に精算の連絡)、ポスターの掲示(貼るだけで内容がわからない)など、意見等を言いづらかった。

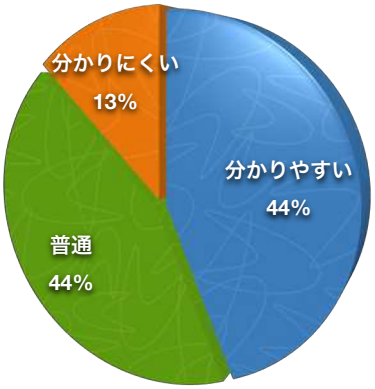


□ BPのシステムのご説明について

理由(分かりにくかった)
・使い方が難しい。
・専用券と共通券の区別が分かりづらい。

理由(シンプルで分かりやすかった)
・精算については自分なりに工夫した

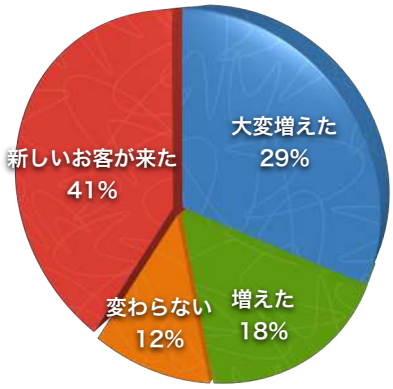
理由(普通)
・お客さんが良く理解していた



□加盟店舗になった理由(複数回答可)
・観光やイベントで来別する方に知ってもらえるひとつのチャンスだと思ったから
・まちが活気づく取り組みを応援したいから
・若者、他地域世代の交流のため、どんどんやっていただきたい。
　こちらも一緒になって活性化に取り組むことが出来る。

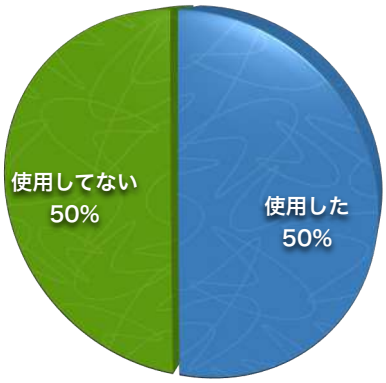
□ イベント＆グルメマップ、パンフレットについて(複数回答可)
・飲食店一覧が分かりやすい
・イベント会場と飲食店や温泉がいっしょに紹介されていて、まちの楽しみが伝わる
・パンフレットを店にもっとほしかった
・パンフレットを持っている人が目立っていた
・もっと参加しやすくする必要がある、店の努力も必要
・パンフレットを持って店に来る方が多く、クーポンでの支払いのお客さんだとわかるサインになった。

□ イベント開催期間中のお客様について(複数回答可)
・県外の方が多い。福岡・大阪など
・シンポジウムの期間は、特に多かった
・混浴温泉世界と比べると少ない



□ BPの使用期間について(複数回答可)
・会期中のみでよい
・地域通貨として会期後も使用できるようなるとよい
・今回、期間が長すぎる
・集金(精算)は、こまめにしてほしい。
・11月、12月のBP(金券)は、お店にとって忙しい時期であり手元にお金がないと店の運営に影響がある
・短い期間で、イベントを商店街でしてほしい、状況によって夜の店が昼に屋台を出すなどことも考えらえる。
・夜の店は、BPを使うお客さんは少ない。
・メリハリがなくなる。集中型でよい。
・まちの人が楽しむことができるのなら、期間を設けなくても良い。
・イベントのある期間はあるほうがよい。県外の方は、特によろこんでいた。たとえば、福岡の方は、まとめて5,000円分のBPを購入し、楽しんでいた。
・ユーロとかいろいろあっても浸透していない。使う人にとって、期限があることで使い切ろうとするので会期中のみがよい。

□ 個人でＢＰを購入し使用しましたか。
　また、参加された催しはありますか？(複数回答可)
・行きたいけれどいけなかった。
・イベントの情報を共有し、主催者側と加盟店、お客さんと一緒に楽しむことができるようにあってほしい。



（4）広告換算

新聞、ラジオ、雑誌等でのメディア掲載件数は、61件であった。多くは地元メディアであったが、全国向けの美術雑誌への掲載も見られた。

広告換算は、11,812,569円となった。

（5）成果と今後の課題

5-1　開催プログラムについて

成果
「アート・マンス2010」では、プラットフォーム型事業として、文化・芸術活動に取組む団体・個人から広く企画を募り、より多くの人が事業に参画できる仕組みを採用した。その結果、27の個人・団体による43のプログラムを実施するができた。これによって、「混浴温泉世界2009」に対して寄せられた、幅広く市民も参画できるような企画にして欲しいという声に応えることができたといえる。
このことを主催者側の視点で見ると、文化・芸術活動を行う多様なプレイヤーの存在を知る機会となったといえる。その意味で、今後の事業展開においてこれらの個人・団体をパートナーとして協力関係を築く足がかりを得ることができたことも、今回の事業の大きな成果であったといえる。
プログラムの多くは、platformをはじめ中心市街地で開催された。これによって中心市街地の用途がいっそう拡大されたといえる。それは、文化・芸術活動の場としての中心市街地の可能性が拓かれたことを意味する。それは単に作品を鑑賞するための場としてだけでなく、市民の日常的な文化・芸術活動の拠点として

の中心市街地の可能性が拓かれたことをも意味する。

課題

幅広く市民も参画できるようにした結果、プログラム間でクオリティに差が生じてしまった。来場者からとくに苦情があったわけではないが、なかには料金と内容とが見合わない企画があったのも事実である。また、参加定員を設けているプログラムでは、定員に届かないプログラムも少なくなく、その結果、集客実績にも差が生じることになった。体験型のプログラムは総じて集客実績が良好であったが、そうした要素のないプログラムでは、集客が思うようにいかなかったようである。これらの点を解決していくためのサポートの仕組みが今後の課題である。

5-2　BPの取組みについて

成果

BPは、有料プログラムへの参加、加盟飲食店や温泉施設などで利用できるクーポン型チケットとして導入を図ったものである。これにより、プログラム間の連携を図り集客向上を目指すとともに、積極的にまちを楽しんでもらう仕掛けとして使用したものである。とくに、飲食店での使用が多かったことから、積極的にまちを楽しんでもらうという意図は、来場者に受入れられたということができる。

また、BPは加盟店に好意的に受入れられたとみることができる。加盟店の半数以上が、会期中、集客増や新規の来店に結びついたと回答しており、地域との連携という点で一定の成果を得たということができよう。

課題

加盟店での使用枚数を細かく見ると、ランチや軽食を提供する飲食店と、居酒屋など夜の営業を基本とする飲食店との間で、BPの利用枚数に差が出る形となった。また、市営温泉4カ所での使用は少なかった。これらは、地元別府市と大分市からの来場者が多かったことや、日帰り客が多かったことが関係していると思われる。

「アート・マンス2010」は、「混浴温泉世界2009」のように作品を点在させ作品を見てまわる「回遊型」のイベントではなかったこともあり、BPによってプログラムとまちの双方を楽しめるという相乗効果が発揮されたどうか判断することは、難しい面もある。

BPの仕組みについては、いくつかの点で検討課題がある。まず、専用券と共通券の違いがわかりにくいという指摘は、デザインを再考することで比較的容易に対応できると思われるので、つぎの機会に改善を図りたい。また、購入できる場所を増やすことや会期後も地域通貨として利用できるようにするといった要望に対しても、実現できるかどうか検討する。

第４節　運営面の検証

（1）事務局サポートについて

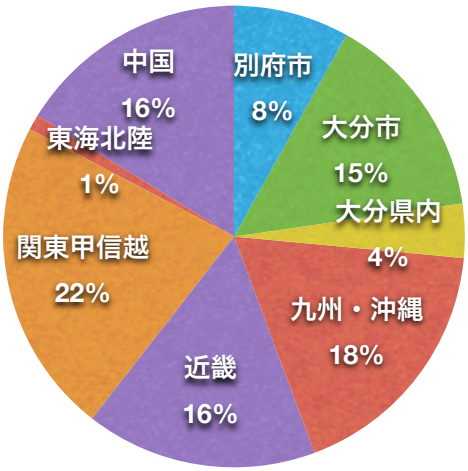
当事業では、「別府市における文化芸術の振興」「別府市における文化芸術の鑑賞機会の充実」「芸術家の発表機会の提供」「集客交流人口の増加」の4つの目的に即した企画を広く団体・市民に公募した。各団体・個人は当事業に企画を登録する事で、下記のサポートを実行委員会から受ける事ができた。当事業への参加の条件は下記の通りである。

- ベップ・アート・マンス2010会期中(11月1日～30日)に実施完了する、もしくは会期と一部かかる日時で実施する企画であること。
- ベップ・アート・マンスの目的を理解し、それに即する企画であること。
- 原則として、有料企画についてはすべて「BP(ビーピー)」での支払いにすること。
  但し、料金支払いのシステム上問題がある場合は相談すること。
- 登録企画に承諾された際、規定の契約書を記入し実行委員会に提出すること。
- 登録企画に承諾された場合、企画実施の打ち合わせを事務局と行うこと。
- 事業実施後、規定の日時までに規定の報告書を実行委員会に提出すること。
- 事業実施後、規定のアンケートを記入し、実行委員会に提出すること。
- 事業の来場者に対して、規定のアンケートを配布・回収し、実行委員会に提出すること。
- 登録企画に関する全ての作成資料や広告物(チラシ、ポスター、報告書等)に「ベップ・アート・マンス 2010 参加企画」と記載すること。

実行委員会はプログラム実施者に対し、下記のサポートを行った。

1．ベップ・アート・マンスを紹介するチラシ、ポスター、パンフレットやWebサイトでのイベント案内

広報業務の一部代行として、チラシ、ポスター、パンフレットを作成し、全国に配布した。右図は全国の配布先地区の割合である。大分県内だけでなく、九州・沖縄、近畿、関東などにも多数配布を行った。



・チラシ(A4、両面カラー)：8,000部
・ポスター(B2、カラー)：1,500部
・パンフレット(A5、カラー、40ページ)：4,500部
　当事業の企画主旨の説明や、全体会場マップ、各プログラムの紹介、BP使用可能店舗・施設の紹介。
・Webサイト
　NPO法人ハットウ・オンパクと協働して製作した。各プログラムともWebからの予約をすることができ、同日に開催されるプログラムも紹介する事ができた。

※パンフレット

2．プレスリリースの作成・配布(個別事業を対象としたプレスリリースの作成は行わない)

各プログラムを一覧できるプレスリリースを発行した。

３．チケット販売の協力(手数料＝0%)

インフォメーションセンターで各プログラムのチケットを販売した。

４．イベント案内・連絡先窓口を事務局が代行(イベント会場でのスタッフ業務は行わない)

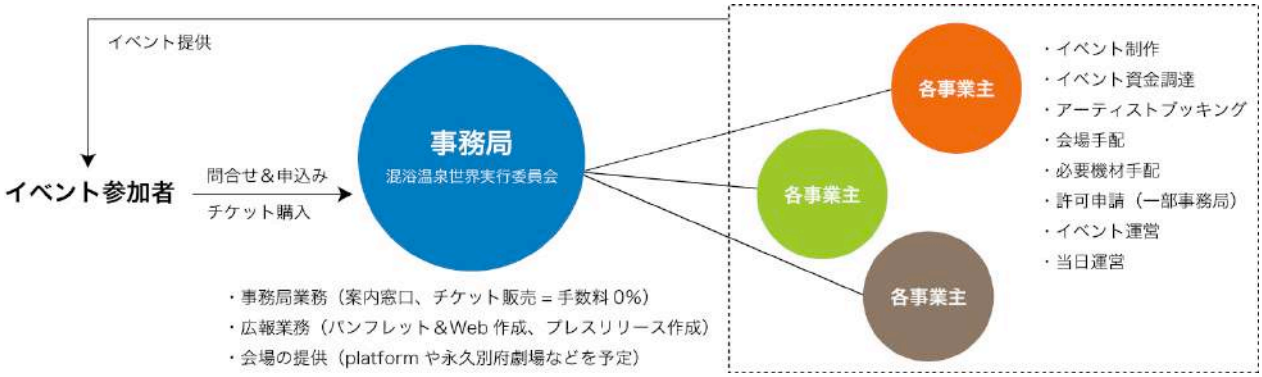
各プログラムの予約受付や、管理、プログラムの案内を実行委員会事務局が代行した。

５．会場の無償提供

当事業の会期中のみ、platform01・02、永久別府劇場の無料貸し出しを行った。

運営形態：情報窓口＆広報業務＆チケット販売の窓口＝実行委員会

イベント制作＆現場運営＝各登録団体

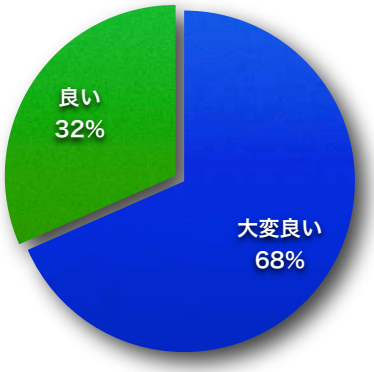


（２）実施者からの声

各プログラム終了後、実施者に対し、事務局の対応や、事業の評価等のアンケートを行った。

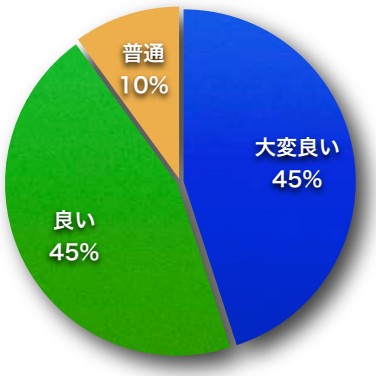
<u>ベップ・アート・マンス 2010について</u>

<u>□このような取り組みをどう思われますか？</u>



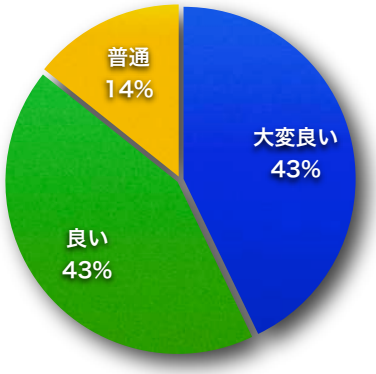
・様々な団体と協力して行う事で、厚みがでると思う。今後も続けてほしい。
・ 不慣れなことも多かったと思いますが、今回でてきた成果と課題を検証していけばいいと思います。なにより来年も続けることが重要だと思います。
・ 観光客の方々に、新旧の多種イベントに参加、体験をしていただき新しい別府の文化に触れてもらえる。
・ 別府の活性化になる。
・普段の単独のイベントと違い、連帯感等がある。
・一般の人にアートを感じてもらう、いい企画だと思う。
・イベントの手法はいいと思うが、各団体とのからみが見受けられなかった。
・もう少し様々なかたにこのイベントを知ってもらいたかった。
・別府という街で別府らしいアートフェスティバルを育てていける企画 としてとても期待のできる企画だと感じました。年に1度ではなく頻繁に行われていけばいいなと思います。
・自分たち以外の人々が、おもしろいことをたくさんしていることを知ることができた。

□ 参加されてよかったと思いますか？



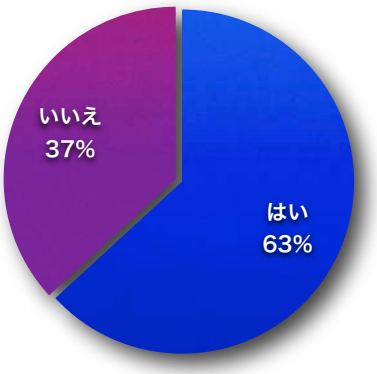
・他の企画に参加してくれた方が参加してくれるなど、参加者に幅が出た。
・見る人踊る人とても良い雰囲気で終わることができた
・会場が無料だった事や、HPなどでの告知で広がりを感じ、通常できないような事ができた。
・人と人、場所と場所をつなげるいい企画だったと思う。
・色んなことをしている人がいるという事をしれ、いい刺激になった。
・具体的なメリットをあまり感じることが出来なかった。いろんな課題を見つけて、解決していく為には、継続しかない。
・他のイベントの方ともつながりができて、協力して集客できるようになるといい。
・日々の取組みを進めるうえで、ニーズの把握、今後のターゲットの方向性を考えるうえで、参考になった。ある意味で、テストマーケティング的な試みとなった。
・目に見えて大きな変化というのはまだなのかもしれませんが、道行く人の意見などを聞いてみるとアートへ 対する受け入れ意識などは確実に変わってきているのだと感じたし、そのことに大きな驚きも覚えました。

□ クーポン型チケット「BP」での入場を「可」にされたプログラム実施者にお聞きします。
「BP」の取り組みをどう思われますか？



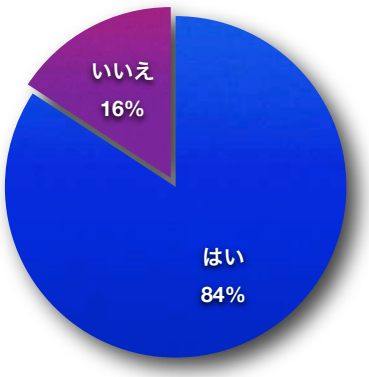
・よいが、チケットのデザインが専用券と共通券が似ているため、わかりにくいというお客さんの意見があったので、今後サイズを大きくしたり色を変えたりなどの変更が必要かもしれない。
・商店街や路地裏の小さなお店など全域で使えたらいいと思う。
・商店街へのイベント意識を持たせる点はいいが、商店街の人のイベントに対する興味や関心も仲長しなければいけない。
・よいと思うが、もっと購入できる場所を増やしてほしい。

□ 他の団体・個人が実施するプログラムに参加されましたか？



実施者のうち、約6割の方々が他のプログラムにも参加している事がわかる。

□ ベップ・アート・マンスは来年も開催する予定です。
　また参加したいと思いますか？

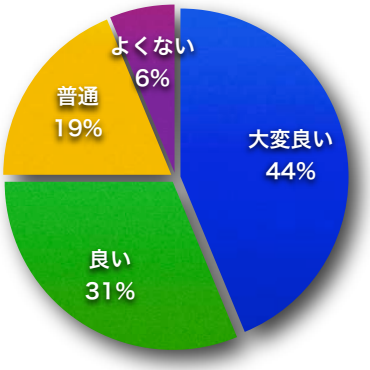


理由
・今回の中で見えてきた、可能性や成果、そして反省を改善して行く事で今後大きな可能性があるように思われる。
・健康志向のイベントがあったらいいな。ヨガとか気功。オーガニック野菜や玄米の料理など。

・まちの楽しみ方を市民の皆さんに伝授する事ができるので、これをきっかけに市民の皆様が自分のまちの面白さの再確認と新しい遊び方を見つけて人生を楽しんでもらえる事を希望します。
・継続して開催する事で市民に定着し集客数が増えるのを期待します。
・当事業目的と添うので参加したいが、11月開催は負担が大きい。
・集客力がない。
・次回は子供も参加できるような企画を考え参加したい。
・ささやかでも別府住民がここ別府にこだわり、”がんばってますよ”という姿をアピールしたい
・お店を開いて32年目を迎えましたが、おかげ様で又新しい視点で考える事が出来そうです。
・施設が無料でかりることができるから。広く告知をしてもらうことができるから。ただイベントがかぶりすぎていて、行きたくても行けない。来てほしくても来れないということがあったので、それがとても残念でした。

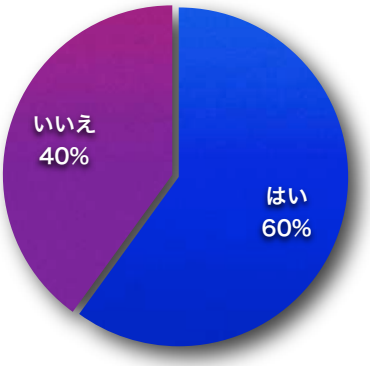
事務局業務について

□ 事務局の対応はいかがでしたか？



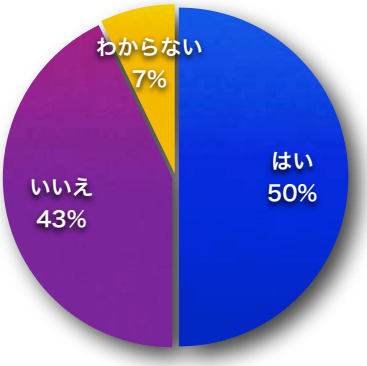
理由
・不慣れなことも多かったと思いますが、今回でてきた成果と課題を検証していけばいいと思います。
・ウェブ予約の仕組みが良く分からなかった。直接か電話予約が多く全て任せられた方がやりやすかった。
・度々のお願いや変更にも関わらず、真摯に御対応いただきました。
・企画開催中に何度も現場を見に来て、連絡をしっかりして頂いた。
・当日の会場の解錠の為の連絡を当日に1時間前に受けた事が気になりました。
・企画開催側へのアプローチがあまりなかったように見える。
・会場使用に関しての中止事項をもっとしっかりと事前に教えてほしい。

□ 今回、事務局が一部広報業務を代行し、記者発表、全体プレスリリースの作成、HPの作成、パンフレットの作成等を行いました。効果があったと思われますか？



理由
・色々な企画が集まって一つの企画に見えるようになるのは良いと思う。もちろんそれを踏まえて、個々が独自に広報物をつくりたいというのもありだと思う。
・個々のプレーヤーでは、広報には限界があり、こういう機会はとてもよい。また、他の団体の取組みもよくわかる。
・この企画を通して来場された方は15人程度だった。
・学校、行政、企業への集客に行ったとき、このプロジェクトについてよく分かってもらえなかった。
・個人ではあそこまでのパンフレットを制作するのは難しいため、とてもありがたい。
・どこまで事務局の広報に頼っていいのかがあまりわからなかった。
・もっと新聞、テレビ等で取り上げてほしかった。
・「別府ではいろいろなことが起こっている」という告知はできていたけど、個々のイベントに関して自分たちで広報していくことが重要だと感じた。HPは見やすくよかったが、そこからの集客はなかった。

□ 今回、事務局が受付業務の代行、チケット販売の協力を行いました。
効果があったと思われますか？
理由
・チケットの販売業務などを行ってくれたことは助かった。
・予約を頂く事ができなかった。



（3）サポートの検証

プログラム実施者の声からもわかるように、「アート・マンス2010」開催に当たっての基本枠組み、参加条件や、チケット販売の仕組み、会場の無償提供は、プログラム提供者に十分理解され、好意的に受入れられたと考えることができる。

「アート・マンス2010」では、事業費の約25％を別府市から当初予算として事前に確保することができたことにより、短期間のうちに企画の募集、パンフレットの作成といった様々な業務を行うことができた。また、「混浴温泉世界2009」以降、専任スタッフの増員など、事務局の体制強化が図られ、日常的なオペレーション能力も向上した。これらのことから、事務局のサポート能力は格段に向上したといえる。

その一方で、改善すべき点も多い。実施者からの要望に真摯に対応してくれたと評価する声もある一方で、実施者に対する対応の内容に濃淡があったことも否めない。今後は、実施者へのフォローアップを十分に行い、どこに問題があったのかきちんと検証していくことが必要と思われる。その上で、サポート業務の一層の標準化が求められる。

なお、加盟店から指摘があったBPのデザイン面での改善は、プログラム提供者側からも同様の問題が指摘されているので、改善を図ることとしたい。

広報面については、広告換算の結果からしても、今回、事務局側に決定的な問題があったとは思われない。しかし、実施者に対するアンケートでは、集客が思うようにいかなかった個人・団体を中心に、広報面での強化を望む声が大きかった。事務局は当初から、公平性の確保という理由もあり、特定の企画にフォーカスを当てて広報を行う方針ではなかった。こうした点で、事務局の役割について、実施団体・個人との間で一種の期待ギャップがあったといえる。こうした問題については、事務局の役割をより明確にしていくことや、日常的な活動を支援していく体制を構築していく中で、解決の糸口を探りたい。

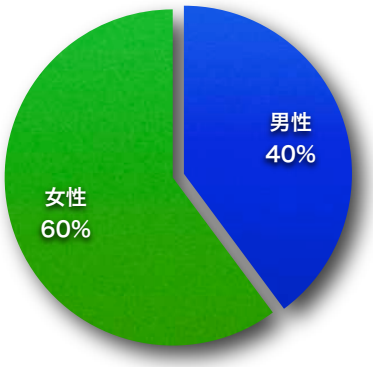
今回の「アート・マンス」では、新しい試みとして、NPO法人ハットウ・オンパク(以下、NPOオンパク)の協力により、体験プログラムの紹介・予約サイトとして定評のあるオンパク・ホームページをそのまま利用して、各プログラムを紹介するとともに、気に入ったプログラムをウェブを通じて予約できるようにした。ウェブ予約は全企画の合計で65件と少なく、全体の３割にも満たなかった。ウェブをつうじた予約が少なかったのは、その存在を事前に十分告知できなかったことにあると思われる。今後は、効果的な広報および予約システムのあり方について、専用の予約システムの構築も視野に入れながらの検討が必要となろう。

第５節　来場者アンケート

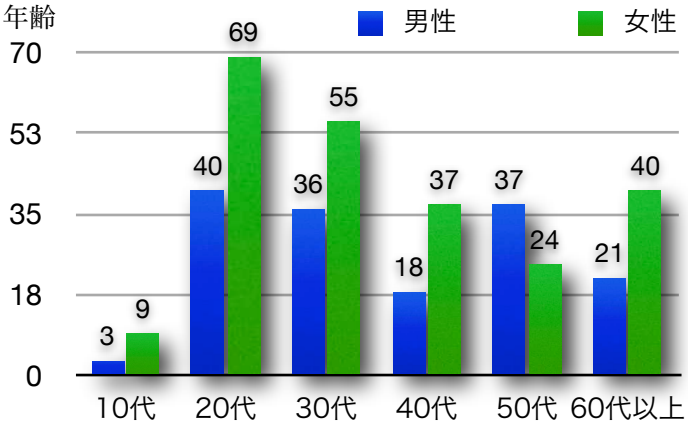
（1）アンケート

　各プログラムの来場者にアンケートを実施した。合計回収枚数は389枚であった。
下記にその結果を記述する。

■ 性別

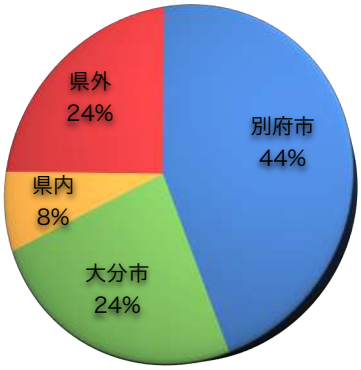


■ 年齢

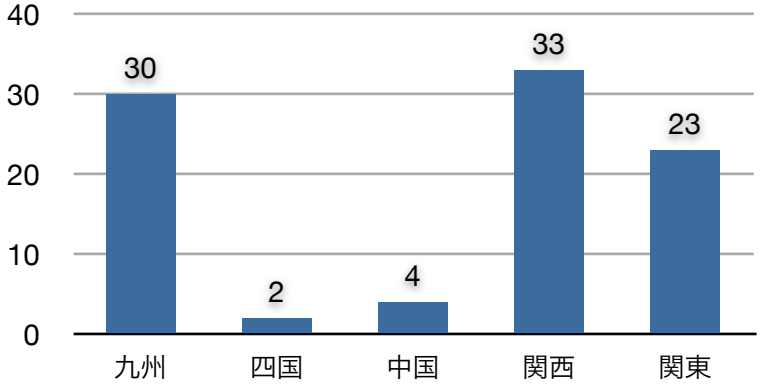


　来場者の男女比では、女性の方が多いという結果がでた。また、年齢別に見てみると、20代・30代の女性が多い事がわかる。この結果は「混浴温泉世界」の時と同様であるが、60代の女性など、高年齢層の方々の来場も多かったのが分かる。

■ 地域別



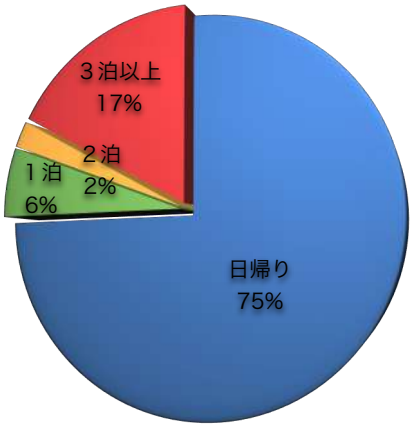
■ 県外来場者の内訳



「混浴温泉世界」では別府市内からの来場客は全体の14%にとどまったが、今回は約半数が別府市からの来場者という結果が出た。また、県外からの来場者は24%と、３割近くを占めている。大分市からの来場者も24%にのぼった。これは「混浴温泉世界」と同じ割合である。
　県外客の内訳では、九州(とくに福岡)の来場者数が最も多く、ついで関西、関東となった。

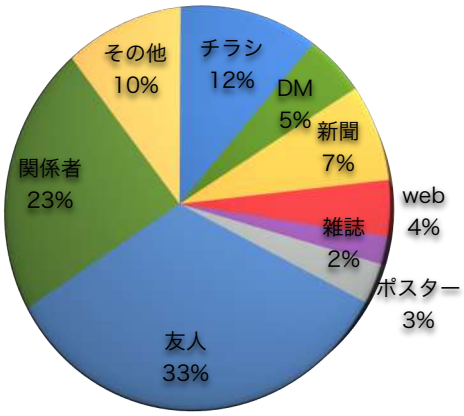
■ 滞在日数

　「混浴温泉世界」時と似たような来場者の傾向が読み取ることができる。 つまり、日帰り客と 1 泊が全体の 7 割を占め、また、2 泊以上した来場者 が 2 割程度と、長期滞在者が比較的見受けられた。



■ 催しを知った経緯

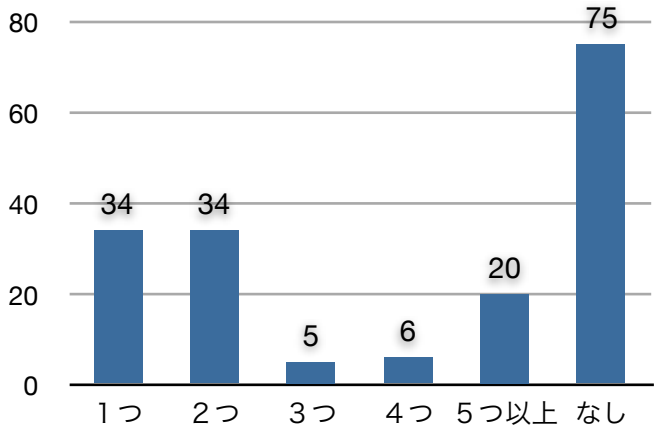
友人・知人等、「人」を介して知った人が約６割、チラシやDM、ポスターなど広報印刷媒体が２割だった。今回の事業の集客割合が別府市からの来場者が多かった事からも、地元からの集客には、「人を介した広報」が有効だろう。



■ 複数の企画への参加の割合

当事業は、様々な分野のアートイベントを同時期に行う事で来場者が複数の企画に参加する事が期待された。

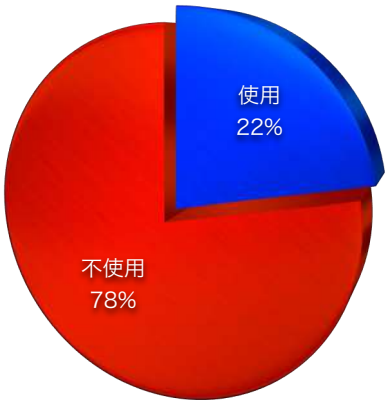
他には参加していないという回答や無回答が多く目立ったが、中には５つ以上の企画に参加している来場者も見られた。



■ BP使用率

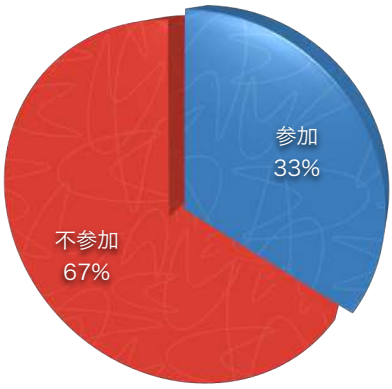
当事業では、有料プログラムに関して、原則としてBPでの支払いも可能とした。また、BPは市内の飲食店や温泉施設でも使用可能とした。

全体の約８割の来場者がBPを使用していないという結果がでた。BPはイベントだけでなく、まちを楽しんでもらうことや、まちとの連携を図る為の仕組みであり、今後使用率を増やしていくことが課題といえよう。



■ 別府現代芸術フェスティバル2009「混浴温泉世界」への参加

「混浴温泉世界2009」への参加率は３割強であった。これは、当事業への別府市民の参加が増えた事が原因の１つとして考えられる。当事業に参加した方々が次回の「混浴温泉世界」への参加を期待したい。



第６節　開催による評価

１．「プラットフォーム型」事業としてのベップ・アート・マンス 2010

「アート・マンス2010」は、文化芸術の祭典であり、その意味では一種のイベントないし興行ではあったが、その一方で、「混浴温泉世界2009」を通じて浮かび上がってきた４つの課題、すなわち、

① 別府市ならではの芸術祭の確立
② 地域との連携
③ 市民が関わりやすい仕組みづくり
④ 経済基盤の確立と事務局の整備

に向けた取組みであったことである。

「アート・マンス2010」の最大の特徴は、「混浴温泉世界2009」で試みた、市内に作品を点在させ、鑑賞者が作品を見てまわる「回遊型」現代アートの祭典というスタイルを敢えてとらず、いわゆる「プラットフォーム型」の事業として、文化・芸術に関する活動を展開している団体・個人に対して企画を公募し、より多くの人びとが事業に参加できる仕組みを確立しようとした点である。その意味において「アート・マンス2010」は、上記の諸課題のうち、「地域との連携」と「市民が関わりやすい仕組みづくり」を強く意識したものであった。

こうしたスタイルのもとで、今回、１ヶ月間にわたって、27の個人・団体による43のプログラムを実施することができた。これらは、文化・芸術活動をしていても発表する機会に恵まれていない個人・団体にとっては、活動を広く紹介する機会となったことはもちろん、文化・芸術活動をしている他の個人・団体と交流したい、あるいは、今後、文化芸術活動に取組んでみたいという個人・団体というニーズにも応えるものとなった。他方、主催者側としても、文化芸術活動に取組む多様なプレイヤーの存在を知り、関係を築く機会ともなり、今後の事業展開の一層の高度化を図る上で、新たな足がかりを築くことができたといえる。その意味で、「アート・マンス」の最大の成果は、未完成とはいえ、まさに、プラットフォーム型事業としての１つのモデルを打ち立てようとした点にあるといってよい。

２．「見る側」と「作る側」の境界を取り払う試み

別の見方をすれば、「アート・マンス2010」は、鑑賞する側と制作する側の境界をいったん取り除いてみようという試みでもあった。実施者には、学生団体など、いわゆるプロフェッショナルではない個人・団体もかなり含まれていた。見る側であった人びとをある種の制作者として参加してもらうことは、市民の文化芸術に対するリテラシーの向上をもたらすなど、地域の文化基盤の強化にとって大きな意味を持つ。今回の取組みは、アート・プロジェクトを一部のアート・ファン層のみのものとしてだけでなく、地域ぐるみの取組みとして展開していく上でも避けて通れないチャレンジであった。

来場者アンケートからもわかるように、「アート・マンス2010」では、来場者の７割近くが別府市、大分市の在住者であった。「混浴温泉世界2009」では、20代、30代の若年層しかも女性が圧倒的に多かったが、「アート・マンス2010」では、50代、60代の来場者も多かった。これらは、プラットフォーム型の事業として展開したことの当然の結果であったと言える。2009年の「混浴温泉世界」では、県内客を中心にわかりやすい企画や参加しやすい企画を求める声が高かったが、今回の試みにより、こうした声に対する一定の回答を用意できたと評価することができる。

以上のことから、プラットフォーム型の取組みは、今後の展開次第では、一定程度の人口規模がある中小都市でアート・プロジェクトを展開する上で、参考事例となりうる１つのモデルともなると思われる。

３．解決すべきいくつかの課題

「アート・マンス2010」では、文化芸術活動を行うプレイヤーを掘り起こすという目的もあり、多様な個人・団体が比較的自由に参加できるようにしたことから、企画の内容面でのクオリティは多様で、集客実績も企画によって大きな差が生じる結果となった。また、企画の内容と料金とが見合わないようなものもいくつかあった。企画実施者に対するアンケートでは、集客が思うようにいかなかった個人・団体を中心に、広報面での体制強化を望む声が大きかった。しかし、事務局は当初から、公平性の確保という理由もあり、特定の企画にフォーカスを当てて広報を行う方針ではなかった。こうした点で、事務局の役割について、実施団体・個人との間で一種の期待ギャップがあったといえる。いずれにせよ、今後も「プラットフォーム型」事業を展開していくのであれば、事業の管理運営責任は事務局にある以上、事務局の役割の明確化とコーディネーション能力の向上、企画を実施する個人・団体との信頼関係の強化にいっそう力を入れて取組む必要がある。

BPについては、「アートと地域双方を楽しむ」ための試みであり、広く一般事業者との連携を図ることを目的に導入したが、飲食店での利用が多く、有料プログラムでの利用は少ないという結果となった。その原因の１つは、今回の「アート・マンス」が「回遊型」ではなかったことに関連していると思われる。現時点でプラットフォーム型事業とBPとの相性が必ずしも良くないと判断するのは早計である。今後は、有料プログラムでも利用しやすくできるよう改善を図ることが必要である。また、専用券と共通券の違いを明確にするといったチケットのデザイン面での改善や、購入できる場所を増やすことなども求められよう。

第７節 総括／今後に向けて

「混浴温泉世界2009」、そして今回の「ベップ・アート・マンス 2010」での経験を活かし、これを発展的に事業として継続させていくのであれば、おそらく2012年の「混浴温泉世界」は、「回遊型」現代アートの祭典と多様なプレイヤーが参加する「プラットフォーム型」事業との混合スタイルになるであろう。これによって、県外からの来場者と地元からの来場者双方に対応できるフェスティバルとして開催することが可能になると思われる。とすれば、今後、取組まなければならないことは、「地域との連携」と「市民が関わりやすい仕組みづくり」をいっそう高い次元で展開していくことと同時に、そうした混合スタイルを支えうる「経済基盤の確立と事務局の整備」を図ることに他ならない。

その重要な鍵は、platform事業のいっそうの強化である。すなわち、platformを文化芸術活動のプラットフォーム形成の拠点として最大限に活用していくことである。より具体的に言えば、地域に対していっそうオープンなスペースとして運営していくこと、もっと利用してもらえるように広報面も含めて管理運営面の高度化を図ること、さらには、日常的に商店街や市民との関係強化に努めることである。

「アート・マンス2010」では、広くプログラムの提供を公募したことにより、多様なプレイヤーの存在を知ることができた。プラットフォーム型の事業は、多様なプレイヤーとの日常的な相互信頼にもとづく文化芸術のプラットフォームを形成しえてこそ、その真価を発揮するものである。したがって、「アート・マンス2010」をつうじてつながった多様な個人・団体との日常的な交流強化が重要である。

また、文化芸術以外の分野での活動に取組む個人・団体との連携強化も重要な課題である。現在、国レベルで「観光地域づくりプラットフォーム」(Destination Management Platform: DMP)形成支援のための施策が実行されているが、まさに別府はそうした取組みの先進地域である。観光・集客サービス分野におけるプラットフォーム形成の取組みとの日常的な連携強化も課題であることはいうまでもない。

さらに、以上のような諸課題をきちんと遂行できる事務局の強化が求められる。プラットフォーム型事業の展開という観点からすると、企画を実施する個人・団体に対する支援強化は重要であるが、とはいえ、事務局はプログラムの品質管理に関与するほどの力量を備えておらず、今後もプレイヤー自身の自己努力を基本とせざるをえない。しかし、対価をとって集客を図る以上、事業の最終責任は主催者側にある。

こうした問題を解決するためのひとつの方策として、実施者が企画を構築するに当たってポイントとなる検討事項を標準化されたフォーマットを通じて自己点検できるような仕組みを構築することが考えられる。こうすることで、事務局との情報共有を図り、信頼関係を強化することにもなろう。と同時に、これは、文化芸術に携わる個人・団体に対する中間支援機能の強化にもつながる。

ところで、「アート・マンス2010」では、神戸大学や立命館アジア太平洋大学の学生団体が実施者として参加した。また、ボランティアには、県内の多くの学生が参加した。「混浴温泉世界2009」の開催以降、別府での文化芸術活動への関心は高まりつつあり、美術系の大学だけでなく、アート・マネジメントや文化政策、まちづくりを研究対象とする研究者、学生・大学院生の間にも広がっている。このことからしても、今後の事業展開の方向性を考える上で、県内外の大学との連携強化は不可欠であり、2012年の「混浴温泉世界」の成否を左右する大きな鍵となろう。

すでに述べたように、「アート・マンス2010」では、事業費の約25％を別府市から当初予算として事前に確保することができた。このことが、短期間のうちに企画の募集、パンフレットの作成といった取組みを展開できた最大の要因であったと理解している。この点が、事業規模の違いはあるものの、「混浴温泉世界2009」との最大の違いであった。この場を借りて、別府市サイドに感謝申し上げたい。2012年の「混浴温泉世界」の企画に当たっては、ファンド・レイジングの規模などの見通しをつけるためにも、2011年度の早い段階から作業を開始する必要がある。別府市に対しては、今後も、今回と同様に、当初予算の事前的な確保を要請したい。

2009年の混浴温泉世界を通じて、「回遊型」現代アートの祭典としての展開については、すでに一定の経験とノウハウを有している。サイト・スペシフィックな展開と市民参加は、「混浴温泉世界」の基本理念でもあり、こうした方向性は今後も追求していかなければならない。と同時に、多様なプレイヤーが関わることができる文化芸術活動のためのプラットフォームをいかに形成していくのか、「別府ならではの芸術祭」の成否の鍵はここにあるといってよいであろう。